

全国国保地域医療学会に参加して

10月4・5日の2日間、全国国保地域医療学会に参加させていただきました。今回は、長崎県と佐賀県の合同開催でした。

当院からは、病棟看護師梶川小百合さんが訪問看護ステーションでの症例報告を、在宅支援センター看護師高田弘美さんがコミュニケーションナースとしての地域での取り組みを発表しました。堂々とした発表で、会場の参加者の方々も熱心に耳を傾けておりました。

さて、この学会は全国の自治体が持ち回り開催ということもあり、参加することでこれまで行つたことのない県へ出むくきっかけにもなります。その県の風土を感じ、郷土料理を堪能することも楽しみになっています。また、交流会に参加し頑張っている全国の仲間と情報交換することで、問題を違つた角度から考えたり、広い視野を持つてみたり、解決につなげることができます。この学会には医療従事者だけでなく、自治体の長、行政の関係部門の方々、福祉関係者など多くの職種の方が参加します。そし



演題発表中の梶川主任看護師

在宅支援センター 保健師
岡本 愛子

て地域住民の方も参加できる特徴があります。

今回学会に参加して感じたのは、どの自治体も抱える問題は共通していること、目指すところは地域包括ケアシステムの構築であるという事です。当町もこの目標にむけて取り組みを続けていますが、うまくいかない点も共通しているように思いました。どうすれば取り組みを続けていくのだろうか? 私なりに考えています。

それは、「地域医療は、まちづくり」という言葉と「生活を支える医療」の2つの印象に残っている言葉にあります。生活を支えるためには、医療機関や介護事業所等の専門職だけではできません。行政の力だけでもできません。専門職は専門性を生かしながら、住民の皆さまの支えあうとともに、参加することでこれまで行つたことのない県へ出むくきっかけにもなります。その県の風土を感じ、郷土料理を堪能することも楽しみになっています。また、交流会に参加し頑張っている全国の仲間と情報交換することで、問題を違つた角度から考えたり、広い視野を持つてみたり、解決につなげることができます。この学会には医療従事者だけでなく、自治体の長、行政の関係部門の方々、福祉関係者など多くの職種の方が参加します。そし

①勤務医の診療枠変更に伴い、火曜日・午前中の内科外来に、女性医師(菊池医師)の診療枠が新設されました。

②改装工事により、リハビリルーム拡張とクリニック性のある床材を採用し、快適なリハビリ環境を整備いたしました。また、在宅支援センターを内科横(旧歯科)に移動いたしました。

※都合により、休診や代診の場合があります。
詳しくはお電話、当院ホームページでご確認ください。

これからも、皆様にご利用されやすい病院環境を整えてまいります。

● ● ● ● ●



移転後の在宅支援センター



改修後のリハビリーム



病院リレーエッセイ 一般病棟 看護師 平岡 貴昭

幼少期に約5年間住んでいた久万高原という土地で看護師として勤めるようになり、早くも2年と半年が経ちました。新卒で入職した私も今年で25歳を迎えました。看護師3年目ともなると社会人としての生活にも慣れ、私生活でも少し自分が持つことが出来るようにになってきました。そんな私にも、前回の上岡看護師からリレーエッセイのバトンが渡ってきました。そんな私にも、前回の上岡看護師からリレーエッセイのバトンが渡ってきましたので趣味の「フットサル」について書きたいと思います。

フットサルは皆様にはあまり馴染みのないスポーツだと思いますが、5人対5人で行う室内サッカーのよくなっています。サッカーと同じでフットサルにもいくつかのポジションと役割がありますが、その中で私は

ゴールキーパーの役割を担当しています。ゴールキーパーというポジションは、試合中一人だけ違う色のユニフォームを着て、打たれたシュートに反応良く動いてセーブするという仕事があります。でも、もう一つ大事な仕事があります。コート全体を把握し相手チームを観察し、味方選手に後ろから大きな声でコーチングをする事です。当然シュートを打たれたら止めるのが仕事ですが、シュートを打たせないように味方選手を動かすコートニング能力も必要なわけです。試合中「前を向け」「左を切れ」などの指示を出しつつ、味方選手の怠慢なプレーには活を入れ、良いプレーをした選手には大きな声で褒める。そんな

流れをコントロールすることが求められます。仕事が休みの日にはチームでの練習や試合に参加して、「守りと指示力」を鍛えながら、リフレッシュし、日々の仕事を頑張っています。

ところで、来年度町立病院に私以来となる新卒看護師が入職予定という話を耳にしました。私に初めての後輩が出来る予定なのです。そんな後輩には、私が約3年間町立病院で学んだ看護師としての経験を少しでも伝えることが出来たらと考

えています。もしかしたら、フットサルで身に付けたコートニングの技術が少しあは生きてくるのかも知れません。

